

第1回 「富岡製糸場と絹産業遺産群」総合管理活用機構検討委員会 議事録

日時：平成25年9月11日（水）10:30～11:55

場所：群馬県庁

議事内容

【経過報告への質疑】

委員長

- ・4資産を選定した過程について伺いたい。

事務局

- ・平成18年に文化庁に応募したときは11くらいあった。世界遺産の条件である国指定文化財で、「富岡製糸場」と強い結びつきのある「田島弥平旧宅」、「高山社跡」、「荒船風穴」を選定した。

【総合管理活用機構の必要性等についての意見】

A委員

- ・ソフト機能を重視し「機構」という名称にしたことは、非常に素晴らしい。
- ・群馬ならではの養蚕・製糸などの知識情報を集積する「機構」は、博物館で言えば「エコ・ミュージアム」と呼ばれる考え方に近い。コアとサテライトがあり、それを繋ぐパスを作ることで、来訪者の地域参加を促すもの。

B委員

- ・イギリスの世界遺産、ダーwent峡谷は、ボランティアの協力があり行政に頼らずに保存管理を行っている。「富岡製糸場と絹産業遺産群」も県民の力により、運動が支持されていることや、県内の多くの年配者が養蚕に携わった経験などを「機構」に活かせればよい。

C委員

- ・養蚕・製糸に関しては、中国が既に無形遺産で世界遺産登録をしているが、中国に見学に行った人が、養蚕・製糸を更に知りたい場合、日本の群馬を訪れるような、その中心に「機構」がなればよい。
- ・名前に関しては、何かしら呼びやすい名前を何とか探したい。

D委員

- ・「県内には養蚕・製糸業が現実に生業として現存している」ということは重要。現存するうちに、「機構」の中で何か出来るとよい。それが研究や技術の継承などに結びつくと思う。

E委員

- ・「富岡製糸場と絹産業遺産群」の他にも県内には絹産業遺産が数多くある。この「機構」の役割として、これらの情報発信が大きな役割と思う。
- ・富岡市の養蚕農家が現在 14 軒、平均年齢が 75 歳である。養糸業をなんらかの方法でシステムとして残していく必要があり、その辺も「機構」の中に入れてらどうかと思う。

F委員

- ・資産の活用にあたり、埼玉県本庄市、深谷市とも連携することも考えて議論したい。
- ・田島弥平旧宅の周辺には、昔の養蚕の建物が多く存在する。住民は建物の重要性を非常に認識しているが、世界遺産になった後も、その重要性を次世代に伝えゆく機能を「機構」が有すればいいと思う。

G委員

- ・藤岡市でも養蚕農家は 8 戸くらいしかない。そこで、今、市内の小・中学校で、実際に蚕を飼い、教育の中に取り入れている。
- ・高山社の来場者に対し、新たにガイダンス施設を市で整備し、そこで養蚕飼育を行い、養蚕飼育を肌で感じてもらうことを検討している。

H委員

- ・荒船風穴は、見学のみではその重要性が分かりにくいので、解説などのソフト面の対応が非常に重要になってくる。
- ・世界遺産登録後の資産の活用と情報発信を「機構」の検討の中でできればと思う。

委員長

- ・「機構」の構想については、全員が魅力的な構想であると感じている。
- ・産業遺産の特性や背景を理解し、情報発信するシステムは必要。
- ・広い知識や経験を有する人材育成も大事。
- ・次世代への継承が必要。
- ・名称についても検討が必要。

【国内事例の紹介、群馬県の実情についての意見】

委員長

- ・和歌山県は施設を建設したのか。

事務局

- ・田辺市が複合施設として建設し、その建物に入居している。

委員長

- ・人員規模、事業内容、建設費について詳しく知りたい。次回までに。

B委員

- ・多少不便でも施設に行かせるような仕組みを検討すべき。
- ・群馬の実情を知ってもらうことが重要。富岡製糸場だけを見ても、その背景を理解できないので、施設の需要は高い。

委員長

- ・確かにソフト中心であっても、何か活動拠点は必要だろう。

A委員

- ・サテライトごとに背景部分の説明をしたらどうか。例えば、富岡製糸場は近代の生糸の製糸技術の解説、高山社は清温育と養蚕、田島弥平旧宅は清涼育と蚕種、荒船風穴も同様。
- ・「機構」の位置づけと機能については重要になる。

委員長

- ・機構の展示のみを見て現地に行かないのは困る。やはり現場に行ってみたいと思わせることが必要と思う。

C委員

- ・富岡製糸場と他の3資産では、受け入れ体制から勘案すると、同じ見学数を受け入れることは出来ないのでは、4つを同様に見学するシステムは機能しない。
- ・フランスの「ポン・デュ・ガール」という水道橋は、1985年に世界遺産に登録され、2010年に大幅に保存管理を変更した。変更後、施設には展示施設だけでなく、託児所や図書館も併設し、入場料を駐車場で一括徴収にした。この様に、状況に応じ管理も変えていくことも必要である。

委員長

- ・各委員からの意見については、次回までに事務局で整理をお願いします。